



62220





伊勢物語の巻之三



むいささこありとせいかおききんむんむいささこありて
よめ

今ちよしりなきをいひてむいささこありて

あきせまういひて

信りひぬ今八かぎりみ山ごりうて銭うらむよおもてりてん

あきほむせきあふよの中銭思ひて侍りたるは 業子物語 信りひぬ

いふいふなりと山ごりうはかあまふよおもてりてんて銭うらむ

他きり

かくて物いしやとせきふりたりたれはねそてりあそききよしり
て生ぬて

水くくろり法花經信解品云于時窮子 中畧 問強躡地 ス 父遙見之
語使言以冷水灑面令得醒悟

巻四

し

鞍の程をきく

鞍をきくすまのれのおちなる人乃つひに

○おのちなる人乃つひに物あるをきくすまのれ
山はもろのきくすまのれをきくすまのれ
あしききすまのれをきくすまのれ
あしききすまのれをきくすまのれ
あしききすまのれをきくすまのれ

その川をわたりん人のいづれか

きくすまのれをきくすまのれ
あしききすまのれをきくすまのれ
あしききすまのれをきくすまのれ
あしききすまのれをきくすまのれ
あしききすまのれをきくすまのれ

此ききすまのれをきくすまのれ
あしききすまのれをきくすまのれ
あしききすまのれをきくすまのれ
あしききすまのれをきくすまのれ
あしききすまのれをきくすまのれ

きくすまのれ

あしききすまのれをきくすまのれ
あしききすまのれをきくすまのれ
あしききすまのれをきくすまのれ
あしききすまのれをきくすまのれ
あしききすまのれをきくすまのれ

あしき

獲獲朝權朝臣の
あしききすまのれをきくすまのれ
あしききすまのれをきくすまのれ
あしききすまのれをきくすまのれ
あしききすまのれをきくすまのれ

あしききすまのれをきくすまのれ
あしききすまのれをきくすまのれ
あしききすまのれをきくすまのれ
あしききすまのれをきくすまのれ
あしききすまのれをきくすまのれ

今昔の事
今昔の事
今昔の事
今昔の事

昔の事
昔の事
昔の事
昔の事

今昔の事
今昔の事
今昔の事
今昔の事

昔の事
昔の事
昔の事
昔の事

今昔の事
今昔の事
今昔の事
今昔の事

昔の事
昔の事
昔の事
昔の事

今昔の事
今昔の事
今昔の事
今昔の事

昔の事
昔の事
昔の事
昔の事

ちのしをのこしにまゝに結わけておいてくれぬかたしうしうから
ちのしをかへちのしをまゝに結わけておいてくれぬかたしう

女はちのしを結わけておいてくれぬかたしう
まがらおのこしを結わけておいてくれぬかたしう
ちのし

このまゝに結わけておいてくれぬかたしう
男は女の結わけておいてくれぬかたしう
結わけておいてくれぬかたしう

女はちのしを結わけておいてくれぬかたしう
はちのしを結わけておいてくれぬかたしう
あつちのしを結わけておいてくれぬかたしう
けしちのしを結わけておいてくれぬかたしう
式う長席映席なまゝに結わけておいてくれぬかたしう

ちのしを結わけておいてくれぬかたしう
あつちのしを結わけておいてくれぬかたしう
けしちのしを結わけておいてくれぬかたしう
式う長席映席なまゝに結わけておいてくれぬかたしう

ちのしを結わけておいてくれぬかたしう
あつちのしを結わけておいてくれぬかたしう
けしちのしを結わけておいてくれぬかたしう
式う長席映席なまゝに結わけておいてくれぬかたしう

あつちのしを結わけておいてくれぬかたしう
けしちのしを結わけておいてくれぬかたしう
式う長席映席なまゝに結わけておいてくれぬかたしう

あつたれは...
わらわは...
つらむとあわれとほまは
まふらむ
倍のまは、次、うままし
入へは、このまを、ま
こころの、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ

文選吉子建七哀詩
頌為西南凡長盛入君

あつたれは...
わらわは...
つらむとあわれとほまは
まふらむ
倍のまは、次、うままし
入へは、このまを、ま
こころの、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ

あつたれは...
わらわは...
つらむとあわれとほまは
まふらむ
倍のまは、次、うままし
入へは、このまを、ま
こころの、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ

あつたれは...
わらわは...
つらむとあわれとほまは
まふらむ
倍のまは、次、うままし
入へは、このまを、ま
こころの、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ

ちこ女之方とりへるに甚
 盤所（女房の侍なり）を
 ちこ女之方とりへるに
 居るといふは、くへてえら
 禁和抄に、甚盤所三間
 北間朝詢方敷黄櫨墨臺
 東椅子其南女房筋入
 代末と云々

ちこ女之方とりへるに甚
 盤所（女房の侍なり）を
 ちこ女之方とりへるに
 居るといふは、くへてえら
 禁和抄に、甚盤所三間
 北間朝詢方敷黄櫨墨臺
 東椅子其南女房筋入
 代末と云々

けり

此女あてみる付するらに来り侍る男なりを女曹司とて
 時はいし人のえんりをもえらで曹司とのゆりあてさ
 ひありとついでとさとのまをりふられらつてくみこむ細き色
 びりみたりたをハ男のそきをえら今申のけりしあはれも
 終ふを下するなをさねはるをわらうしてさこそもくばち中
 に居るといふや。けは進ばなんまを或後してさば何の
 みてあてしては居らむらむらわ後してあはれはさき
 ち本任とのときをさるなんの侍る侍る何と女のさけり
 けりしは、まてつあまなんいつよよよのさきり
 けりてさあ目のえらむをさてあてりしつてそのやりをわ

ちこ女之方とりへるに甚
 盤所（女房の侍なり）を
 ちこ女之方とりへるに
 居るといふは、くへてえら
 禁和抄に、甚盤所三間
 北間朝詢方敷黄櫨墨臺
 東椅子其南女房筋入
 代末と云々

毎日字納りし初書をきてついでにはあはれ、極くを納清ぬ
 するを侍るは、さうれ、えらをもえらでさきり、さきりさきり
 濃なる或はさうれ、さうれ、さきり、さきり、さきり、さきり、
 きばらうらめつて、けりし、あつ、さきり、さきり、さきり、
 奥の方へ投入するし。○晨の初納の上下略して、さきり、
 ちをほらうらめつて、さきり、さきり、さきり、さきり、
 掌供、御輿、輦蓋、笠織、扇帷、帳湯、沐洒、掃殿、庭及燈、燭、松、柴
 炭、燗、等、事、助一人、充一人、大、属一人、少、属一人、殿部、四十人、使、部二
 十人、直、丁二人、駈、使、丁八十人、など、さきり、さきり、
 員令、云、尚、殿一人、掌、供、奉、輿、織、膏、沐、燈、油、薪、炭、之、吏、典、殿、二
 人、同、尚、殿、女、孀、六人、こ、人、教、令、り、し、
 後、まの、侍、奉、の、司、と、り、て、
 後、まの、侍、奉、の、司、と、り、て、
 女、の、名、此、殿、司、り、さ、き、り、さ、き、り、さ、き、り、
 女、の、名、此、殿、司、り、さ、き、り、さ、き、り、さ、き、り、

なほのま細くうけらる殿上のつらきとて乃ふづつとて
殿格子掃部女嬬供奉 酒帚殿上主殿仕女供奉くあれは酒帚ハツる女儀式ハあれ
るまうし令式共々女等のとのまのりてく人かきくは女と云も後ハあれ
ちまふまろ又日中行更とては後世の柳ハ女嬬
酒帚のまらとてあまのひまらとては世のまらけり
つ時のまられぞまづい屋上のつらきとてあまの男のま
あつてせんそすれあつてまら

かゝつてまらけりつらきとてあまの男のま
ほろろとてまらけりつらきとてあまの男のま
かゝる人月夜まらけりつらきとてあまの男のま
まらけりつらきとてあまの男のま
まらけりつらきとてあまの男のま

かゝる人月夜まらけりつらきとてあまの男のま
まらけりつらきとてあまの男のま
まらけりつらきとてあまの男のま
まらけりつらきとてあまの男のま
まらけりつらきとてあまの男のま

神巫 神巫 神巫
ねハ今昔物語ニ法師神巫
神巫ハ今昔物語ニ法師神巫
神巫ハ今昔物語ニ法師神巫
神巫ハ今昔物語ニ法師神巫
神巫ハ今昔物語ニ法師神巫

かんちまをんやうしきまらけりつらきとてあまの男のま
まらけりつらきとてあまの男のま
まらけりつらきとてあまの男のま
まらけりつらきとてあまの男のま
まらけりつらきとてあまの男のま

神巫ハ神まらけりつらきとてあまの男のま
神巫ハ神まらけりつらきとてあまの男のま
神巫ハ神まらけりつらきとてあまの男のま
神巫ハ神まらけりつらきとてあまの男のま
神巫ハ神まらけりつらきとてあまの男のま

神巫 神巫 神巫
ねハ今昔物語ニ法師神巫
神巫ハ今昔物語ニ法師神巫
神巫ハ今昔物語ニ法師神巫
神巫ハ今昔物語ニ法師神巫
神巫ハ今昔物語ニ法師神巫

神巫ハ神まらけりつらきとてあまの男のま
神巫ハ神まらけりつらきとてあまの男のま
神巫ハ神まらけりつらきとてあまの男のま
神巫ハ神まらけりつらきとてあまの男のま
神巫ハ神まらけりつらきとてあまの男のま

うーかのそあふつあ
津さいのれとあかひ
ふーぬ まつちの津
をもちいのりしてき
をくみぬいすつてや
ふけり おつちつら
まへにれうんとて
まへにれうんとて
なぐまともまされ

にたしむとまをなりつけつてふとつてくはにハ用カり。み
さう川とあいつらうても祓きつて祓へなまふをソりあ
物(まのまはまの聖の祈)祈をいそまの祈の流ハ
終(まのまはまの聖の祈)祈をいそまの祈の流ハ
きて力を流し流しむるまの祈をいそまの祈の流ハ
らひ流しむるまの祈をいそまの祈の流ハ
後(まのまはまの聖の祈)祈をいそまの祈の流ハ
ヌーカそまき
のりひし
とつひそなん後けり

こいかのまを祓おの祈をよりあうりゆりのぬるまのり
これみまは流しむるまの祈をいそまの祈の流ハ
ん(まのまはまの聖の祈)祈をいそまの祈の流ハ
てはせいのりひしむるまの祈をいそまの祈の流ハ

ろくろくそまをいそまの祈をいそまの祈の流ハ

いせまのそまをいそまの祈をいそまの祈の流ハ
まのまはまの聖の祈をいそまの祈の流ハ
まのまはまの聖の祈をいそまの祈の流ハ

教のそまをいそまの祈をいそまの祈の流ハ
不詳自推也

今君へりまのまをいそまの祈をいそまの祈の流ハ
まのまはまの聖の祈をいそまの祈の流ハ
まのまはまの聖の祈をいそまの祈の流ハ

あまののりひしむるまの祈をいそまの祈の流ハ
御嚴如神性寛明仁怒温和慈順好讀書傳潜思釈教雁鳥犬之遊漁
獵之娛赤背留意まの祈をいそまの祈の流ハ
まのまはまの聖の祈をいそまの祈の流ハ
まのまはまの聖の祈をいそまの祈の流ハ

まのまはまの聖の祈をいそまの祈の流ハ
まのまはまの聖の祈をいそまの祈の流ハ
まのまはまの聖の祈をいそまの祈の流ハ
まのまはまの聖の祈をいそまの祈の流ハ

とらひ合ふてしきり
 本々のうつくしき
 のちをとり一若ハ
 此れハ一若ハ
 此れハ一若ハ

言ひも同ハ事ノ如ク
 言ひも同ハ事ノ如ク
 言ひも同ハ事ノ如ク
 言ひも同ハ事ノ如ク

此れハ一若ハ
 此れハ一若ハ
 此れハ一若ハ

此れハ一若ハ
 此れハ一若ハ
 此れハ一若ハ
 此れハ一若ハ

此れハ一若ハ
 此れハ一若ハ
 此れハ一若ハ

此れハ一若ハ
 此れハ一若ハ
 此れハ一若ハ
 此れハ一若ハ

此れハ一若ハ
 此れハ一若ハ

此れハ一若ハ
 此れハ一若ハ
 此れハ一若ハ

Handwritten text at the top of the right page, possibly a title or introductory note.

Main body of handwritten text on the right page, written in a cursive style.

Handwritten text at the top of the left page, possibly a title or introductory note.

Main body of handwritten text on the left page, written in a cursive style.

Additional handwritten text at the bottom of the left page, including the characters '目' and '七'.

日本三つありては...
古昔の...
九曲の...
一...

ふりて... 或人あり

歌... 舟... 舟... 舟...
日枝...
よ...

舟... 舟... 舟...
舟... 舟... 舟...
舟... 舟... 舟...

伊勢物語...
今本...
一...

か... 伊勢物語... 舟...
舟... 舟... 舟...
舟... 舟... 舟...

伊勢物語...
今本...
一...

伊... 舟... 舟...
舟... 舟... 舟...
舟... 舟... 舟...

かの伊勢物語... 舟... 舟...
舟... 舟... 舟...
舟... 舟... 舟...

Handwritten notes in the top right margin of the right page.

Main handwritten text on the right page, consisting of several lines of cursive script.

Main handwritten text on the left page of the right leaf, continuing the cursive script.

Handwritten notes in the top right margin of the left page.

Main handwritten text on the left page, consisting of several lines of cursive script.

あはれなる御心...
あはれなる御心...
あはれなる御心...

あはれなる御心...
あはれなる御心...
あはれなる御心...

あはれなる御心...
あはれなる御心...
あはれなる御心...

あはれなる御心...
あはれなる御心...
あはれなる御心...

あはれなる御心...
あはれなる御心...
あはれなる御心...

あはれなる御心...
あはれなる御心...
あはれなる御心...

あはれなる御心...

あはれなる御心...
あはれなる御心...
あはれなる御心...

あはれなる御心...
あはれなる御心...
あはれなる御心...

くまの侍はあつしよの
侍とつらひ侍

又あつしよ乃冥土をさかん

こゝにいづかたもくさる侍とさかんさかんさかんさかん
さかんさかんさかんさかんさかんさかんさかんさかん

さかんさかんさかん

あつしよの侍は尾張のゆへに誠より多利

さかんさかんさかんさかんさかんさかんさかんさかん

「御宮はあつしよの侍は尾張のゆへに誠より多利の侍とさかん

けつしよの侍はあつしよの侍は尾張のゆへに誠より多利の侍とさかん

さかんさかんさかんさかんさかんさかんさかんさかん

さかんさかんさかんさかんさかんさかんさかんさかん

さかんさかんさかんさかんさかんさかんさかんさかん

さかんさかんさかん

皇女をいかにあつしよの侍は尾張のゆへに誠より多利の侍とさかん
の侍はあつしよの侍は尾張のゆへに誠より多利の侍とさかん

あつしよの侍はあつしよの侍は尾張のゆへに誠より多利の侍とさかん

上の多利はあつしよの侍は尾張のゆへに誠より多利の侍とさかん

さかんさかんさかんさかんさかんさかんさかんさかん

さかんさかんさかんさかんさかんさかんさかんさかん

さかんさかんさかんさかんさかんさかんさかんさかん

あつしよの侍はあつしよの侍は尾張のゆへに誠より多利の侍とさかん

さかんさかんさかんさかんさかんさかんさかんさかん

あつしよの侍はあつしよの侍は尾張のゆへに誠より多利の侍とさかん

萬葉集の伊勢物語卷第十
伊勢物語卷第十
伊勢物語卷第十

伊勢物語卷第十
伊勢物語卷第十
伊勢物語卷第十

伊勢物語卷第十
伊勢物語卷第十
伊勢物語卷第十
伊勢物語卷第十
伊勢物語卷第十

伊勢物語卷第十
伊勢物語卷第十
伊勢物語卷第十

伊勢物語卷第十
伊勢物語卷第十
伊勢物語卷第十
伊勢物語卷第十

伊勢物語卷第十
伊勢物語卷第十
伊勢物語卷第十
伊勢物語卷第十
伊勢物語卷第十

神の御魂を奉りて
御魂を奉りて
御魂を奉りて
御魂を奉りて
御魂を奉りて

おまけの御魂を奉りて
御魂を奉りて
御魂を奉りて
御魂を奉りて
御魂を奉りて

御魂を奉りて

神の御魂を奉りて
御魂を奉りて
御魂を奉りて
御魂を奉りて
御魂を奉りて

御魂を奉りて
御魂を奉りて
御魂を奉りて
御魂を奉りて
御魂を奉りて

御魂を奉りて
御魂を奉りて
御魂を奉りて
御魂を奉りて
御魂を奉りて

御魂を奉りて
御魂を奉りて
御魂を奉りて
御魂を奉りて
御魂を奉りて

目 七

記者のとハハと云ふ事をいふて見わつたる事也
そりあまのハハと云ふ事なり
そりあまのハハと云ふ事なり
そりあまのハハと云ふ事なり

記者のとハハと云ふ事をいふて見わつたる事也
そりあまのハハと云ふ事なり
そりあまのハハと云ふ事なり
そりあまのハハと云ふ事なり

わし二條の后ありて御息所とすたる時此神よまうて給ひ
しに
今うと云ふ神の於ハハ二條后ありての御息所とすたる時此神よまうて給ひ
しに
今うと云ふ神の於ハハ二條后ありての御息所とすたる時此神よまうて給ひ
しに

康宮のちかやちとハ本ハ
あまの如きやちとハ本ハ
あまの如きやちとハ本ハ
あまの如きやちとハ本ハ

神母と云ふ事をいふて見わつたる事也
神母と云ふ事をいふて見わつたる事也
神母と云ふ事をいふて見わつたる事也
神母と云ふ事をいふて見わつたる事也

或は云ふ事なり
神宮の如きやちとハ本ハ

神母と云ふ事をいふて見わつたる事也
神母と云ふ事をいふて見わつたる事也
神母と云ふ事をいふて見わつたる事也
神母と云ふ事をいふて見わつたる事也

神宮の如きやちとハ本ハ
あまの如きやちとハ本ハ
あまの如きやちとハ本ハ
あまの如きやちとハ本ハ

神母と云ふ事をいふて見わつたる事也
神母と云ふ事をいふて見わつたる事也
神母と云ふ事をいふて見わつたる事也
神母と云ふ事をいふて見わつたる事也

神宮の如きやちとハ本ハ
あまの如きやちとハ本ハ
あまの如きやちとハ本ハ
あまの如きやちとハ本ハ

神母と云ふ事をいふて見わつたる事也
神母と云ふ事をいふて見わつたる事也
神母と云ふ事をいふて見わつたる事也
神母と云ふ事をいふて見わつたる事也

神母と云ふ事をいふて見わつたる事也
神母と云ふ事をいふて見わつたる事也
神母と云ふ事をいふて見わつたる事也
神母と云ふ事をいふて見わつたる事也

をいふなりてあり
ありたり又ある所
くありてその後には
ありてその後には
ありてその後には

をいふなりてあり
ありたり又ある所
くありてその後には
ありてその後には
ありてその後には

をいふなりてあり
ありたり又ある所
くありてその後には
ありてその後には
ありてその後には

をいふなりてあり
ありたり又ある所
くありてその後には
ありてその後には
ありてその後には

をいふなりてあり
ありたり又ある所
くありてその後には
ありてその後には
ありてその後には



Handwritten notes at the top of the right page, including the name 'Ise Monogatari' and other characters.

Main handwritten text on the right page, written vertically in cursive style.

Main handwritten text on the left page, written vertically in cursive style.

